

2 景観づくりの目標・基本的方向

(1) 景観づくりの目標

岡山の風土に生まれ、長い時間をかけて形成された風景は、私たちが愛着と親しみを持って未来へ引き継ぎたいと願う、いわば「原風景」とも呼ぶことができるものです。

岡山市景観基本計画では、岡山市の景観特性を「5つの原風景」としてとらえ、「原風景」にみがきをかけ、未来への贈物として魅力ある景観を創り出していくことが岡山市民に課せられた役割であるという認識から、景観づくりの目標を次のように設定します。

景観特性から導き出される特徴ある5つの原風景

《緑の原風景》



市街地の北部・南部を取り囲み、背景となっている緑をはじめ、身近な里山や市街地内の緑が岡山市の景観を特徴づけています。

《水の原風景》



旭川・吉井川・笹ヶ瀬川の三大河川やその支流、農業用水路などが豊かな水をたたえ、岡山を象徴する景観となっています。

《農の原風景》



水田と農家集落が織りなす田園景観をはじめ、山間部の棚田、特産の果樹園、広大な干拓地など、自然と暮らしが一体となった特徴ある農の景観が展開しています。

《歴史の原風景》



岡山城・後楽園の城下町を代表する景観や歴史のロマンを感じさせる吉備路の景観、地域に残る歴史・文化的遺構は岡山の個性を際立たせるシンボルとなっています。

《都(まち)の原風景》



都(まち)は人々が幾世代にもわたり営々と築き上げた空間であり、都市活動の場、集住の場として活気に満ちています。風格と賑わい、うるおいと人間味あふれる都市景観を形成します。

岡山の歴史・文化・人を育んできた多様な自然や風土に着目しながら、いつまでも心に残る「おかやまの原風景」を守り、育て、再生し、五感に訴える美しい岡山固有の景観を創造します。

景観づくりの目標

おかやまの**原風景**を活かした景観の**創生**

※原風景とは… おかやまの風土に生まれ、長い歴史により形成された心地よい風景であり、市民が未来へ引き継ぎたいと願う岡山固有の風景。

※創生とは… 先人によって創り出された景観を受け継ぎ、また魅力ある景観を未来への贈物として創り出すこと。

(2) 景観づくりの基本的方向

岡山市の景観づくりは景観の骨格づくりである広域的景観形成と市民主体の景観まちづくりである地域的景観形成の両面から取り組みます。

